

氏名	田 中 信 一 郎
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 562 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	同種皮膚移植における皮膚上皮細胞に対する免疫能の変動 —リンパ球依存性抗体(LDA)の測定—
論 文 審 査 委 員	教授 野原 望 教授 寺本 滋 教授 太田善介

学位論文内容の要旨

同種移植における拒絶反応の機構は未だ十分に解明されていない。特に皮膚移植の場合皮膚特異抗原が関与する為更に複雑である。従って皮膚移植片拒絶の免疫反応を解析する為にはより適正な実験法が必要と考え、ラット皮膚上皮細胞を用いた *in vitro* immunoassay を検討した。ラット皮膚上皮細胞をラット尾よりトリプシンにて単離し、 ^{51}Cr にて標識してリンパ球依存性殺細胞試験及び抗体依存性殺細胞試験の標的細胞に用いて、ラット同種皮膚移植による免疫脾細胞及び宿主血清中のリンパ球依存性抗体(LDA)の出現を検索した。

同種移植片拒絶に一致して宿主脾中に、殺細胞能を持つ免疫脾細胞が出現した。一方、宿主血清中には、拒絶反応に少し遅れて LDA の出現が認められた。この LDA は移植後40日以上経過してもその活性を維持していた。又、LDA 測定法の培養至適条件は Effector to Target cell ratio = 100 : 1 ~ 200 : 1 ・培養時間10~12時間であった。以上の如く、皮膚移植拒絶反応を解析する上で、皮膚細胞を標的細胞として用いる *in vitro* immunoassay はよりの確な方法であり有用と思われた。

論文審査の結果の要旨

本研究はラット皮膚上皮細胞を標的細胞としたリンパ球依存性抗体測定法を確立し、これを用いてラット同種皮膚移植における免疫能の変動を追求しそのもので、同種移植における拒絶反応の機構を解明する上で重要な知見を挙げたものである。

よって、本研究者は医学博士の学位をうる資格があるものと認める。